



連鎖反応

憂鬱な Chain Reaction

keito

憂鬱なChainReaction

幼少期に虐待を受けた経験のある親は、自分の子供に対しても同じように虐待を加える可能性がある。その確率は約40%に及び、その研究内容は様々な機関で多角的に調査されて、結果として政府は新しい法律を制定した。それは不幸な子供が生まれないための緊急的な措置であり、負の世代間伝達を断ち切るための画期的な仕組みだった。

僕はそんなねじれた子供時代を送った人たちに接する児童虐待矯正（child abuse cure）用アンドロイドだった。対象からクローンコピーした遺伝子情報を使って彼らと似た容姿を持ち、分子サイズのナノマシンが自己増殖しながら成長する。

CAC5600103。

それが僕の識別子。

製造番号。

政府によって矯正が必要とされた大人（子供を育てることを希望する親もしくは保護者）は治療セミナーを受けながら僕を育て、無事に育児ができたなら本当の子供を持つことが許された。失敗した場合、その大人は生涯子供をもつことができない。

僕は彼らの手助けをする。それが僕の仕事であり、存在理由。

初めて彼女と出会った日。

「まあ、なんて可愛い赤ん坊なのでしょう！」

彼女が小さな僕を抱き上げた。僕はプログラミングされた通りに無邪気に笑う。

「あなたの名前はマイケルよ。格好良い名前でしょう？」

そんな僕をあやしめながら、彼女は言った。

僕を育てるのはカーラ・ロットン。お父さんによって酷く虐待を受けていた可哀想な大人。でも大丈夫。問題はない。この治療プログラムによって僕は順調に大きくなり、カーラは母親としての正しい秩序を手に入れる。

マイケル・ロットン。

それが僕の新しい名前。

日々はゆるやかに、しかし早いスピードで流れていった。一歳の誕生日は彼女の友人が大勢集まってパーティーをした。彼女ははしゃぎすぎて大事なケーキをひっくり返した。僕は笑う。僕が一番最初に喋った単語は「チョコレート」だ。うまく言えずに「トコレート」になった。二歳の誕生日は遊園地でマスコットたちに囲まれる。きらきらと輝く賑やかなパレードを彼女と一緒に眺めた。彼女と過ごすあいだ僕は徹底的に暴れ、泣き、ぐずり、笑った。そんな僕を、彼女は精一杯育てた。

僕がマイケル・ロットンになってから二年半が過ぎ、いよいよ合否判定の日がやってきた。

僕は彼女となにもない部屋で結果を待った。彼女の緊張が僕にも伝わった。

「残念ながら不合格です。ロットンさん」

試験官は無情にもそう言った。

彼女は僕に一度だけ暴力を振るい、僕は右手を上手に動かすことができない。

これで彼女は適正なしと判定され、生涯において子供をもつことが許されなくなった。それが彼女のせいではなく、彼女が受けた幼少の傷が原因であったとしても、罪を背負うのは彼女だった。

度重なる暴力が彼女を壊した。彼女は僕を抱きしめて泣きじゃくった。

「ごめんね、ごめんね.....マイケル。私のマイケル.....」

何度も何度も僕に謝って、親になれない己を恨んだ。僕は何も言わなかった。試験の結果が不合格だった場合、患者を刺激しないようにプログラミングされている。

僕たちのナノマシンによる細胞複製能力は約三年で衰える。合否に関わらず、役目を終えた僕たちはスクラップ（心ない大人たちは”人間屑（ひとくず）”と言った）となって廃棄される。

不合格と言われた瞬間に、僕の仕事は終わりを告げた。

でも僕は感じていた。

彼女の溢れんばかりの愛情を。

どれだけ乱雑に扱われたとしても、彼女は僕を愛してくれていると実感していた。

彼女は最善を尽くした。僕という子供に一生懸命に向き合った。

それは育てられた者だけにしかわからない感情だろう。

過去に戻りたかった。初めて彼女と出会った頃に。そしてもう一度育てて欲しかった。次こそはうまくやれるはず。彼女には母親になれる資格があるのだから。

それから数日が経って、僕は解体工場で順番を待つ。

アラームが鳴って、コンベアが動く。

僕はもうすぐ、彼女の子供じゃなくなる。

彼女の温もりを、

あなたを愛していることを、

僕は忘れてしまうだろう。

ドリルが回り、

火花が散った。

もうすぐメモリが消える。

そして最後に完了のランプが光る。

それを、僕は、見るができない。

僕はもうすぐ、物言わないただの人間屑になる。

だから、せめてあなたは忘れないでください。

あなたが、愛情深く精一杯に僕を育ててくれたことを。

あとがき

『お題：過去、機械、ねじれた子供時代 カテゴリー：純愛もの』という某三題晰サイトのお題から連想されたお話です。

.....少しでも楽しんで頂けましたでしょうか？

今回はSF風味に仕立ててみました。

しかし普段SFはあまり読まないのので、SFを書くつもりがSFチックにしかならなかったという。

。。

もっと精進します。

このジャンルはなかなか奥深いですね。

少し調べていくうちに「冷たい方程式」など、読んでみたい作品がたくさん見つかりました。

もし機械が自我を持っていたら。

しかしロボット工学三原則に基づいて、彼らには「人間に絶対に服従する」というプログラムが埋め込まれている。

そんな世界にはこんな悲劇も待っているかもしれません。

最後まで目を通して頂いた、すべての方に感謝をいたします。

2012/02/20 第一版 恵賭

コメントに感想など頂けると嬉しいです。